

誰もが、ただ、いい場所。



西本願寺

親鸞聖人のご誕生のお祝い

しゅう

そ

ごう

たん

え

宗祖降誕会

2025 (令和7) 年
5月20日・21日

経文を掲載しております。
大切にお取り扱いください。



しゅうそ ごうたん え
宗祖降誕会

鈴木行三 作詞

野村成仁 作曲

♩=112 明るく



1. やみにまよいう われひとのは
2. かれはてに しあめつちのは
いくるみちには ひらけたり
いつくしみに ひろおえり
むろのともあしめ はとけくもに
かかげんとて あれましぬ }
かそがんとて あれましぬ }
たたえまつれ きょうのひを
いわまつれ きょうのひを

宗祖降誕会

一、闇に迷う われひとの

生くる道は ひらけたり

無漏のともし はるけくも

かかげんとて 生れましぬ

たたえまつれ きょうの日を

祝いまつれ きょうの日を

二、
渴^かれはてにし 天地^{あめつち}は

いづくしみに うるおえり

甘露^{かんろ}の雨 とこしえに

そそがんとて 生^あれましぬ

たたえまつれ きょうの日を

祝いまつれ きょうの日を

2025 (令和7) 年

宗祖降誕会

浄土真宗を開かれた親鸞聖人は、

一一七三年五月二十一日(承安三年四月一日)、

京都の日野の里でお生まれになりました。

日野の里では、江戸時代からご誕生をお祝いする行事が行われていたと伝えられています。

一八七四(明治七)年五月二十一日、

本願寺第二十一代宗主明如上人により、

本願寺において宗祖降誕会が営まれ、

現在では、五月二十日・二十一日の二日間、

ご法要を勤め、併せて、

祝賀能・茶席などの祝賀行事を催しております。

目次

03	ご挨拶 〈浄土真宗本願寺派総長 園城 義孝〉 〈本願寺執行長 藤實 無極〉
05	伝灯奉告法要 ご親教「念仏者の生き方」
07	浄土真宗の教章(私の歩む道)
08	2025(令和7)年本願寺の法要行事
09	法要・行事日程(19日・20日)
10	法要・行事日程(21日)
11	茶席
12	祝賀能
13	お茶所布教
14	日野誕生院
15	無量寿会作法
17	新制御本典作法第一種
39	宗祖降誕奉讃法要
40	恩徳讃／お西さん(西本願寺)SNS紹介
41	お西さんの一日
42	YouTubeによるお聴聞・お西さんを知ろう!
43	帰敬式
44	「院号」をいただくには
45	免物
47	「令和6年能登半島地震災害義援金」募集について
48	お西さんの奉仕団(半日バージョン)
49	大谷本廟／角坊
50	大谷本廟納骨・永代経總追悼法要／大谷本廟朝の法座



しゅうそ ぶこうたん え

宗祖降誕会にあたって

浄土真宗本願寺派総長

その 園城 義孝

本願寺執行長

ふじ み 藤 實 無極

みなさま、全国各地からようこそ本願寺へご参拝くださいました。

本願寺では、宗祖親鸞聖人のご誕生をお祝いする宗祖降誕会を、五月二十日・二十一日にお勤めしております。

親鸞聖人は、一一七三（承安三）年五月二十一日（旧暦四月一日）にご誕生されました。九十年のご生涯を通して、私たちをそのまま救うと願われた阿弥陀如来が、南無阿弥陀仏のお念仏となってはたらく続けてくださっていることを明らかにされました。そして、多くの先人方が、お念仏をよりどころとして生き抜か

れ、後世に伝えてくださいました。

おかげさまで、今、私たちは、それぞれに悩みや悲しみ、苦しみを抱えながらも、聖人が明らかにされたご本願に出遇い、阿弥陀如来のお慈悲に摂め取られ、決して捨てられることのない大きな力に包まれているという、安心感のなかで日々を送らせていただいております。このたびの法要では、ご一緒に聖人のご誕生をよろこびつつ、お念仏申しましょう。

また、この法要に併せて、重要文化財「南能舞台」では、祝賀能・狂言が演ぜられ、国宝「飛雲閣」ではお茶席など、さまざまな行事を開催しております。さわやかな新緑の季節、どうぞご本山でゆつくりと、心やすらぐひとときをお過ごしください。

合掌



伝灯奉告法要 ご親教「念仏者の生き方」

仏教は今から約二五〇〇年前、釈尊^{しやくそん}がさとりを開いて
 仏陀^{ぶつだ}となられたことに始まります。わが国では、仏教はも
 とも仏法^{ぶつぽう}と呼ばれていました。ここでいう法とは、この
 世界と私たち人間のありのままの真実ということであり、
 これは時間と場所を超えた普遍的な真実です。そして、こ
 の真実を見抜き、目覚めた人を仏陀^{ぶつだ}といい、私たちに苦悩
 を超えて生きていく道を教えてくれるのが仏教です。

仏教では、この世界と私たちのありのままの姿を「諸^{しよ}
 行無常^{ぎやうむじやう}」と「縁起^{えんぎ}」という言葉で表します。「諸行無常^{しよぎやうむじやう}」
 とは、この世界のすべての物事は一瞬もとどまることなく
 移り変わっているということであり、「縁起^{えんぎ}」とは、そ
 の一瞬ごとにすべての物事は、原因や条件が互いに関わ
 りあつて存在しているという真実です。したがって、そ
 のような世界のあり方の中には、固定した変化しない私
 というものは存在しません。

しかし、私たちはこのありのままの真実に気づかず、自
 分というものを固定した実体と考え、欲望の赴くままに
 自分にとって損か得か、好きか嫌いかなど、常に自己中心

の心で物事を捉えています。その結果、自分の思い通りに
 ならないことで悩み苦しんだり、争いを起こしたりして、
 苦悩の人生から一歩たりとも自由になれないのです。この
 ように真実に背いた自己中心性を仏教では無明^{むみょう}、煩惱^{ぼんのう}とい
 い、この煩惱が私たちを迷いの世界に繋ぎ止める原因と
 なるのです。なかでも代表的な煩惱は、むさぼり・いか
 り・おろかさの三つで、これを三毒^{さんどく}の煩惱といえます。

親鸞^{しんらん}聖人も煩惱を克服し、さとりを得るために比叡山^{ひえいざん}
 で二十年にわたりご修行に励まれました。しかし、どれほ
 ど修行に励もうとも、自らの力では断ち切れない煩惱の
 深さを自覚され、ついに比叡山を下り、法然^{ほうねん}聖人のお導
 きによって阿弥陀如来^{あみだにょらい}の救いのはたらきに出遇^{であ}われまし
 た。阿弥陀如来とは、悩み苦しむすべてのものをそのまま
 救い、さとりの世界へ導こうと願われ、その願い通りには
 たらき続けてくださっている仏さまです。この願いを、
 本願^{ほんがん}といいます。我執^{がしやく}、我欲^{がよく}の世界に迷い込み、そこか
 ら抜け出せない私を、そのままの姿で救うとはたらき続
 けていてくださる阿弥陀如来のご本願ほど、有り難いお

慈悲はあります。しかし、今ここでの救いの中にありませんが、その慈悲ひとすじにお任せできない、よろこばない私の愚かさ、煩惱の深さに悲嘆せざるをえません。

私たちは阿弥陀如来のご本願を聞かせていただくことで、自分本位にしか生きられない無明の存在であることに気づかされ、できる限り身を慎み、言葉を慎んで、少しずつでも煩惱を克服する生き方へとつくり変えられていくのです。それは例えば、自分自身のあり方としては、欲を少なくして足ることを知る「少欲知足」であり、他者に対しては、穏やかな顔と優しい言葉で接する「和顔愛語」という生き方です。たとえ、それらが仏さまの真似事といわれようと、ありのままの真実に教え導かれて、そのように志して生きる人間に育てられるのです。このことを親鸞聖人は門弟に宛てたお手紙で、「(あなた方は)今、すべての人びとを救おうという阿弥陀如来のご本願のお心をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第にさめ、むさぼり・いかり・おろかさという三つの毒も少しずつ好まぬようになり、阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっておられるのです」とお示しになられています。たいへん重いご教示です。

今日、世界にはテロや武力紛争、経済格差、地球温暖

化、核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題が山積しています。が、これらの原因の根本は、ありのままの真実に背いて生きる私たちの無明煩惱にあります。もちろん、私たちはこの命を終える瞬間まで、我欲に執られた煩惱具足の愚かな存在であり、仏さまのような執われのない完全に清らかな行いではありません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心になう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです。

国の内外、あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え、そのお心になうよう私たち一人ひとりが行動することにより、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います。世界の幸せのため、実践運動の推進を通し、ともに確かな歩みを進めてまいりましょう。

二〇一六(平成二十八)年十月一日

浄土真宗本願寺派門主 大谷 光 淳

※このご親教は、伝灯奉告法要初日にお示しくださいました。



浄土真宗の教章（私の歩む道）

宗名 浄土真宗
宗祖 親鸞聖人

（開山）
ご誕生 一七三三年五月二十一日
（承安三年四月一日）

ご往生 一二六三年一月十六日
（弘長二年十一月二十八日）

宗派 浄土真宗本願寺派

龍谷山 本願寺（西本願寺）

阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）

聖典 本尊 聖典 釈迦如来が説かれた「浄土三部経」

『仏説無量寿経』

『仏説観無量寿経』

『仏説阿弥陀経』

・宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教

『正信念仏偈』『教行信証』行巻末の偈文

『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』

・中興の祖 蓮如上人のお手紙

『御文章』

教義

生活

宗門

阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還って人々を教化する。

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来の心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と歡喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。

この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団である。それによって、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する。

2025(令和7)年 本願寺の法要行事

元旦会・修正会	1月 1日(水・祝)
御正忌報恩講法要	1月 9日(木)～16日(木)
如月忌	2月 7日(金)
春季彼岸会	3月17日(月)～23日(日)
第9代宗主実如上人500回忌法要	4月12日(土)～13日(日)
第19代宗主本如上人200回忌法要	4月13日(日)～14日(月)
〈春の法要〉立教開宗記念法要	4月15日(火)
誕生会(日野誕生院宗祖降誕会)	5月19日(月)
宗祖降誕会	5月20日(火)～21日(水)
広如忌(角坊)	6月 1日(日)～ 2日(月)
大谷本廟納骨・永代経総追悼法要	6月 5日(木)～ 8日(日)
朝の法座(大谷本廟)	7月20日(日)～22日(火)
盂蘭盆会	8月14日(木)～15日(金)
戦没者追悼法要	8月15日(金)
千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要 (東京・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑)	9月18日(木)
秋季彼岸会	9月20日(土)～26日(金)
龍谷会(大谷本廟報恩講法要)	10月15日(水)～16日(木)
〈秋の法要〉全国門徒総追悼法要	11月22日(土)～23日(日・祝)
御煤払	12月20日(土)
除夜会	12月31日(水)

宗祖月忌法要 毎月15日・16日(1月は除く)

※16日はShinran's Day(親鸞聖人の日)

法要・行事日程

20(火)日 19(月)日

14時00分 引き続き	誕生会 五会念仏作法 牧野 光博 師(岐阜県)	14時00分 引き続き
15時30分～16時00分 お茶所布教 P.13	御影堂	6時00分 晨朝 帰敬式(午前の部) お茶所布教 P.13
14時00分 速夜法要 無量寿会作法 〈約75分〉 P.15	御影堂	9時30分～10時00分 本願寺参与物故者追悼法要
引き続き 御堂布教〈約10分〉 九條 孝義 師(滋賀県)	御影堂	10時00分 園児のつどい
お茶所	御影堂	10時30分 お西さんの法話〈約15分〉 藤澤 彰祐 師(滋賀県)
	御影堂	11時00分 茶席 ※茶席券が必要です P.11
	御影堂	12時30分～16時00分 帰敬式(午後の部) 常例布教(30分1席) 九條 孝義 師(滋賀県)
	御影堂	13時00分 飛雲閣(1層)
	御影堂	14時00分 総会
	御影堂	15時00分 お茶所

園児のつどい

浄土真宗本願寺派保育連盟加盟園の保育園・幼稚園・認定こども園に通う園児が参拝されます。つどいは一部と二部とに分かれ、はじめに「式典」として「幼児のおつとめ」が勤められます。式典に続く後半のアトラクションでは、子どもたちと一緒に楽しいひとときを過ごします。

と き ● 5月20日(火)
式典：10時30分
アトラクション：11時10分

ところ ● 御影堂



担当部 教化部

※以下ページ担当部は で表記

6時00分	晨朝 じんじょう	両 堂
晨朝後	帰敬式(午前の部) ききょうしき	御 影 堂
9時30分～15時30分	茶席 ※茶席券が必要です P.11	飛雲閣(1層)
10時00分	日中法要(約40分) 新制御本典作法第一種 御堂布教(約10分) 九條 孝義 師(滋賀県)	御 影 堂
引き続き		
11時00分～11時30分	お茶所布教 P.13	お 茶 所
11時30分	宗祖降誕奉讃法要(約50分) (音楽法要) P.17	御 影 堂
12時30分～13時00分	雅楽献納会 P. LIVE	御 影 堂
12時30分～16時00分	祝賀能 ※観能券が必要です P.12	南 能 舞 台
13時30分	帰敬式(午後の部) ききょうしき	御 影 堂
14時00分	常例布教(30分2席) 九條 孝義 師(滋賀県) 昼座	総 会 所
15時00分～15時30分	お茶所布教 P.13	お 茶 所

と き ● 5月21日(水) 12:30～

ところ ● 御影堂



楽 目

- ◆ 平調「五常楽急」「陪臚」
- ◆ 仏教讃歌「恩徳讃」

第57回 雅楽献納会 (約30分)

この雅楽献納会は、一九六一(昭和三十六)年の宗祖親鸞聖人七百回大遠忌法要を機縁として開催されました。平素より各雅楽団体等において研鑽を積まれた方々が親鸞聖人の御前に参集し、雅楽を奏して聖人のご誕生をお祝いします。

茶席

国宝飛雲閣にて、やぶのうしろ藪内流による抹茶のご接待がなされます。

給仕をしていただく方々は、本願寺の用達業の方々を中心に組織された「開明社」の皆様で、藪内家・開明社ともに、本願寺の大切な行事の折にご奉仕いただいております。

どうぞ心安らぐひとときをお過ごしください。



期日

5/20 (火)

開場 12時30分～16時

5/21 (水)

開場 9時30分～15時30分

場所

飛雲閣 一層

※「茶席券」が必要です。

白洲受付テントにて

参拝懇志(五千円以上)をご進納の方に「茶席券・観能券」を各一枚お渡しいたします。

また、二十一日九時より祝賀能の入場整理券をお渡しいたします。



祝賀能

本願寺と能の関係は古く、第8代宗主蓮如上人の頃に始まり、宗祖降誕会での祝賀能は明治20年代半ば頃から恒例となりました。演能は京都観世会が奉仕され、能は観世流の関西所司代格である片山家が、狂言は大蔵流の茂山家が中心となり演じられます。

また、会場である南能舞台は、日本最大の屋外能舞台です。

歴史ある建造物と能がかもしだす優美な空間をぜひともご堪能ください。

場所

南能舞台

※「観能券」が必要です。

期日

5/21(水)

開場12時

開演12時30分

本年の番組

一、能 花月
一、狂言 長光
一、能 熊坂



お茶所布教

お茶所にて布教使による法話（ほとけさまのおはなし）を一席15分程度のリレー形式にて実施いたします。どなた様もお気軽にお立ち寄りください。（春・秋のお彼岸中も実施しております）

期日

5/20(火)

9時30分～10時
15時30分～16時

5/21(水)

11時～11時30分
15時～15時30分

場所

お茶所

5月20日(火)

5月21日(水)

渡辺雅俊師(北海道) 渡辺雅俊師(北海道)
岡橋大航師(京都府) 若林唯人師(大阪府)
三宮義円師(滋賀県) 麻布浩明師(三重県)
藤澤彰祐師(滋賀県) 三宮義円師(滋賀県)
藤澤彰祐師(滋賀県)



親鸞聖人の
幼き日を偲ばせて
いただく場所

歌碑



聖人が得度にあたって
詠まれたという歌碑

うぶゆ
産湯の井戸



聖人の産湯として使わ
れたといわれる井戸

えなづか
胞衣塚



聖人のへその緒を
埋められたといわれる塚



幼童の御影

京都市伏見区にある日野誕生院は、親鸞聖人の御誕生の地を顕彰して、一八二八(文政十一)年にお堂が建立されたことに始まります。現在の堂宇は、一九三一(昭和六)年に平安時代の様式を取り入れ建立されました。堂内には、ご本尊の阿弥陀如来像、聖人六歳のお姿を写したといわれる「幼童の御影」、および聖人の父上である日野有範卿の木像がご安置されております。境内には、聖人ご誕生の際に使用されたと伝わる「産湯の井戸」があります。毎年五月十九日には、『誕生会』をお勤めしております。一緒に聖人のご遺徳を偲びつつ、そのご誕生をよろこびましょう。

影、および聖人の父上である日野有範卿の木像がご安置されております。境内には、聖人ご誕生の際に使用されたと伝わる「産湯の井戸」があります。毎年五月十九日には、『誕生会』をお勤めしております。一緒に聖人のご遺徳を偲びつつ、そのご誕生をよろこびましょう。

アクセス

京阪・地下鉄・JR「六地藏」駅または地下鉄「石田」駅から京阪バス「東御蔵山循環右回〔12系統〕」乗車し「日野田頼町(ひのたづらちょう)」より徒歩5分
※地下鉄及びJR「六地藏」駅のバス停は「JR六地藏北口」

住所・電話番号

〒601-1417
京都市伏見区日野西大道町19
電話番号(075)575-2258
FAX番号(075)575-2241

親鸞聖人御誕生の地 日野の里 日野誕生院



誕生会
5/19(月)
14時から

五会念仏作法
引き続き(布教)約40分間

本願寺派布教使
牧野光博(師・岐阜県)

無量寿会作法

●二十日 速夜法要

法要次第

- 一、行事鐘
- 二、証誠・題者・結衆入堂着座
- 三、講読師登高座
- 四、結衆座前立列
- 五、散華頭參進
- 六、磬 二音
- 七、三奉誦 每句散華
- 八、散華頭復席
- 九、結衆復座
- 十、磬 一音

- 一一、表白 一音
- 一二、畫讃
- 一三、揚經題
- 一四、經義
- 一五、論義
- 一六、精判
- 一七、仰磬
- 一八、回向句
- 一九、磬 二音
- 二〇、講読師降高座
- 二一、証誠・題者・結衆退出
- 二二、諸僧退出

宗祖降誕会（五月二十日速夜法要）では、「論義」を用いた作法をお勤めいたします。「論義」とは、経論の内容について問答形式で議論するもので、この法要の形式は、奈良の興福寺や比叡山の延暦寺などで、千数百年前から盛んに行われてきた伝統があります。本願寺で論義を用いて法要を勤められたのは、第十四代宗主寂如上人（二六五―一七二五）だと伝えられてきました。現在お勤めされる論義作法は、この「無量寿会作法」だけが伝えられています。この作法は、私たちになじみの深い「浄土三部経」からテーマを選び、学問的な質疑応答を行う、独特な形式の法要です。「それ真実の教を顕さば、すなはち『大無量寿経』これなり」と明らかに示してくださった、親鸞聖人のご誕生をお祝いするにふさわしい法要です。





●証誠(しょうじょう)

論義が正しく行われていることを確認する役で、ご門主様が勤められます。

●題者(だいしゃ)

お経の中からテーマを選び、論義が終わると精判を行う役で、証誠が兼ねます。

●講師(こうじ)

テーマについて講演し、問者の問に対して答えます。

●読師(どくし)

経題を読む役で、講師が兼ねることがあります。

●問者(もんじゃ)

講師に問を発する役で、結衆の中から選ばれます。

●堂達(どうたつ)

論義の終わりの磬を打つ役で、結衆より選ばれます。



(法要次第の語句説明)

(表白)

法要の主要なる意義を尊前に述べるもので、本法要においては宗祖親鸞聖人のご誕生について述べます。

(画讃)

第十四代宗主寂如上人が宗祖親鸞聖人のご遺徳を讃え、記された讃文を唱えます。

(揚経題)

読師(現在講師が兼ねる)が「仏説無量寿経」と経題を唱えます。

(経釈)

講師が無量寿経を「大意とは……、題目とは……、文に入って判釈せば……、上巻とは……、下巻とは……、」と釈します。

(論義)

論題について問答することで、「業義」と「副義」とがあります。現在、業義は「出世本懐」を、副義は「行信一念、十劫久遠、特留此経、一心帰命」の内から行われます。問者は「業義・副義」の順に発問し、講師は「副義・業義」の順に答え、これを二回行います。

(精判)

証誠が題者を兼ねる場合は、通常行われません。

(仰磬)

論義が終わると題者(現在証誠が兼ねる)が、堂達に打磬を命じます。

新^{しん}制^{せい}

御^ご本^{ほん}典^{でん}作^さ法^{ほう}

第一種

● 二十一日 日中法要

「御本典」とは親鸞聖人の主著であり私たち浄土真宗の根本聖典でもある『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』のことを指します。真宗教団連合（真宗十派で組織）では元仁元年（一二三四年）四月十五日にこの『教行信証』の草稿本が完成したとし、この日を立教開宗の日と定めています。

昭和四十八年の「親鸞聖人御誕生八〇〇年・立教開宗七五〇年慶讃法要」では『教行信証』からの御文で「御本典作法」が音楽法要として厳修されました。当時の仏教界では音楽法要は斬新的で新たな可能性を示しました。

令和五年三月よりお勤めました「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」に際し「新制御本典作法」を制定いたしました。

特に「正信偈」の部分は、和讃譜を新たに採譜いたしました。これまでの節に加え、もう一つ節を加えることによって選択肢が増え、各寺院の法要での唱え分けができるものと考えます。この正信偈和讃譜が次の五〇〇年に向けて皆さんでご唱和できますことを願っております。



チ 一 いち
羽 スク

ウ 乗 じよう
羽 スク

宮羽 究 く
受上

ウ 竟 きよう 次第取
宮 スク

宮 之 し
スク

ク 極 ごく
宮 スク

ツ 説 せつ
宮 スク

羽 奇 き
スク

ク 特 どうか
羽 スク

イ 最 さい
宮羽 受上

ウ 勝 しょう 次第取
宮 スク

宮 之 し
スク

ウ 妙 めう (ワル)
宮 スク

ン 典 だん
宮 スク

羽 如 によ
スク

イ 來 らい
羽 スク

ウ 興 こう
宮羽 受上

宮 世 せ 次第取
スク

宮 之 し
スク

ウ 正 しょう
宮 スク

ツ 説 せつ
宮 スク

頌讚 (教卷)

出律曲音

羽

平調

毎句取次第

商宮羽





宮
一 スク 時 じ

—

宮
一 スク 機 き

—

ン 宮
一 スク 純 じゆん

—

ク 羽
一 スク 熟 じゆく

羽
一 スク 十 じつ

—

ウ 羽
一 スク 方 ほう

—

ウ 宮 羽
一 受上 稱 しょう

—

ン 宮
一 スク 讚 さん 次第取

ク 羽
一 スク 速 そく

—

ツ 羽
一 スク 疾 しつ

—

ン 宮 羽
一 受上 圓 えん

—

宮
一 スク 融 にゆ 次第取

宮 羽
一 受上 之 し 次第取

—

ン 商 宮
一 受上 眞 しん

—

宮 羽
一 カナ上 教 けう(フル)

宮
一 スク 之 し

—

ウ 宮
一 スク 誠 じよう

—

ン 宮
一 スク 言 こん

宮
一 スク 之 し

—

ン 宮
一 スク 金 こん

—

ン 宮
一 スク 言 こん



正信念佛偈（行卷）和讃譜

出音 宮 平調



歸^き命^{みよう}无^む量^{りよう}壽^{じゆ}如^に來^{らい}
 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

南^な无^も不^ふ可^か思^し議^ぎ光^{こう}
 商 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

法^{ほう}藏^{ぞう}菩^ぼ薩^{さつ}回^{いん}位^に時^じ
 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

在^{ざい}世^せ自^じ在^{ざい}王^{おう}佛^{ぶつ}所^{しよ}
 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

觀^と見^{けん}諸^{しよ}佛^{ぶつ}淨^{じよう}土^ど曰^{いん}
 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

國^{こく}土^ど人^{にん}天^{てん}之^し善^{ぜん}惡^{まく}
 商 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

建^{こん}立^{りゆう}无^む上^{じよう}殊^{しゆ}勝^{しやう}願^{がん}
 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

超^{ちやう}發^{ほつ}希^け有^う大^{だい}弘^ぐ誓^{ぜい}
 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

五^ご劫^{こう}思^し惟^{ゆい}之^し攝^{しょう}受^{じゅ}
 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

普^ふ放^{ほう}无^む量^{りよう}无^む邊^{へん}光^{こう}
 宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

清^{しょう}淨^{じよう}歡^{かん}喜^ぎ智^ち慧^え光^{こう}
 宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

超^{ちよう}日^{にち}月^{がつ}光^{こう}照^{しょう}塵^{じん}刹^{せつ}
 宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

重^{じゅう}擔^{せい}名^み聲^{よう}聞^{しょう}十^{もん}方^{じつ}
 商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

无^む尋^げ无^む對^{たい}光^{こう}炎^{えん}王^{おう}
 宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

不^ふ斷^{だん}難^{なん}思^じ无^む稱^{しょう}光^{こう}
 商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

一^{いつ}切^{さい}群^{ぐん}生^{じよう}蒙^む光^{こう}照^{しょう}
 宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一



本願名號正定業
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

成等覺證大涅槃
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

如來所以興出世
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

五濁惡時群生海
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

至心信樂願爲回
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

必至滅度願成就
宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一

唯說彌陀本願海
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

應信如來如實言
宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

能のう發ほつ一いち念ねん喜き愛あい心しん
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

凡ぼん聖じょう逆ぎやく謗ほう齊さい迴え入にゆう
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

攝せつ取しゆ心しん光こう常じょう照しょう護ご
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

貪とん愛ない瞋しん憎ぞう之し雲うん霧む
宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

不ふ斷だん煩ぼん惱のう得とく涅槃ねはん
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

如によ衆しゆ水しい入にゆう海かい一いち味み
宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

已い能のう雖すい破は无む明みよう闇あん
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

常じょう覆ふ眞しん實じつ信しん心じん天てん
宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一



譬^ひ如^{によ}日^{につ}光^{こう}覆^ふ雲^{うん}霧^む
 宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

獲^{ぎやく}信^{しん}見^{けん}敬^{きよう}大^{だい}慶^{きよう}喜^き
 宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

一^{いつ}切^{さい}善^{ぜん}惡^{まく}凡^{ぼん}夫^ぶ人^{にん}
 宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

佛^{ぶつ}言^{げん}廣^{こう}大^{だい}勝^{しょう}解^げ者^{しゃ}
 宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

雲^{うん}霧^む之^し下^げ明^{みよう}无^む閤^{あん}
 商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

卽^{そく}横^{おう}超^{ちよう}截^{ぜつ}五^ご惡^{あく}趣^{しゆ}
 宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

聞^{もん}信^{しん}如^{によ}來^{らい}弘^ぐ誓^{ぜい}願^{がん}
 商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

是^ぜ人^{にん}名^{みよう}分^{ふん}陀^だ利^り華^け
 宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

彌陀佛本願念佛
宮一 羽一 宮一 商一 羽一 宮一

信樂受持甚以難
宮一 羽一 宮一 商一 羽一 宮一

印度西天之論家
宮一 羽一 宮一 商一 羽一 宮一

顯大聖興世正意
宮一 羽一 宮一 商一 羽一 宮一

邪見憍慢惡衆生
商一 角一 商一 宮一 宮一 羽一

難中之難无過斯
宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

中夏日域之高僧
商一 角一 商一 宮一 宮一 羽一

明如來本誓應機
宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一



釋迦如來楞伽山
しや か によ らいりよう が せん
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

龍樹大士出於世
りゆう じゆ だい じしゅつ と せ
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

宣說大乘无上法
せん ぜつ だい じよう む じよう ほう
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

顯示難行陸路苦
けん じ なんぎよう ろく ろく
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

爲衆告命南天竺
い しゆ ごう みよう なん てん じく
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

悉能摧破有无見
しつ のう ざい は う む けん
宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

證歡喜地生安樂
しょう かん ぎ じ しょう あん らく
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

信樂易行水道樂
しんぎよう いぎよう しい どう らく
宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

憶おく念ねん彌み陀だ佛ぶつ本ほん願がん
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

唯ゆい能のう常じょう稱しょう如に來らい號ごう
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

天てん親じん菩ぼ薩さつ造ぞう論ろん說せつ
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

依え修しゆ多た羅ら顯けん眞しん實じつ
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

自じ然ねん即そく時じ入にゆう必ひつ定じよう
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

應おう報ほう大だい悲ひ弘ぐ誓ぜい恩おん
宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

歸き命みよう无む尋げ光こう如に來らい
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

光こう闡せん横おう超ちよう大だい誓せい願がん
宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一



廣こう由ゆ本ほん願がん力りき迴え向こう
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

歸き入にゆう功く德どく大だい寶ほう海かい
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

得とく至し蓮れん華げ藏ぞう世せ界かい
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

遊ゆう煩ぼん惱のう林りん現げん神じん通ずう
宮一 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

爲い度ど群ぐん生じよう彰しよう一いつ心しん
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

必ひつ獲ぎやく入にゆう大だい會え衆しゆ數しゆ
宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

即そく證しよう眞しん如によ法ほつ性しよう身じん
商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

入にゆう生しよう死じ菌おん示じ應おう化げ
宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一



ほん し どん らん りよう てん し
本師曇鸞梁天子

じよう こう らん しよ ぼ さつ らい
常向鸞處菩薩禮

さん ぞう る し じゆ じよう きよう
三藏流支授淨教

ぼん じよう せん ぎよう き らく ほう
梵燒仙經歸樂邦

てん じん ぼ さつ ろん ちゆう げ
天親菩薩論註解

ほう ど いん が けん せい がん
報土回果顯誓願

おう げん ね こう ゆ た りき
往還迴向由他力

しよう じよう し いん ゆい しん じん
正定之回唯信心



惑^{わく}染^{ぜん}凡^{ぼん}夫^ぶ信^{しん}心^{じん}發^{ぼつ}
 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

必^{ひつ}至^し无^む量^{りよう}光^{こう}明^{みよう}土^ど
 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

道^{どう}綽^{しゃつ}決^{けつ}聖^{しょう}道^{どう}難^{なん}證^{しょう}
 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

萬^{まん}善^{ぜん}自^じ力^{りき}貶^{へん}勤^{こん}修^{しゆ}
 宮一 羽一 宮一 商一 商一 宮一

證^{しょう}知^ち生^{しょう}死^じ即^{そく}涅^ね槃^{はん}
 商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

諸^{しよ}有^う衆^{しゆ}生^{じよう}皆^{かい}普^ふ化^け
 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

唯^{ゆい}明^{みよう}淨^{じよう}土^ど可^か通^{つう}入^{にゆう}
 商一 角一 商一 宮一 宮一 宮一 羽一

圓^{えん}滿^{まん}德^{とく}號^{ごう}勸^{かん}專^{せん}稱^{しよう}
 宮一 宮一 宮一 羽一 微一 微一 微一

三不三信誨慇懃

いっしょうぞうあくちぐぜい
一 生 造 悪 値 弘 擔

像末法滅同悲引

至安養界證妙果

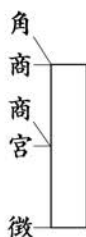
ぜん どう どく みよう ぶつ しよう い
善導獨明佛正意

宮一 宮羽 宮ヘ 宮ク 宮ウ 宮フ 宮シ 宮ソ

こう みよう みよう けん いん ねん
光明名號顯回縁

商ウ 商ウ 商ヘ 宮羽 商ウ 商ヘ 宮ウ 宮羽

宮 イ 一 開 かい 宮 ウ 一 矜 こう
 宮 ウ 一 入 に(ワル)う 宮 イ 一 哀 あい
 商 シ へ 本 ほん 商 ウ へ 定 じよう
 宮 シ 一 願 がん 宮 シ 一 散 さん
 宮 イ 一 大 だい 商 ク 一 與 よ
 宮 イ 一 智 ち 宮 ク 一 逆 ぎやく
 微 イ 一 海 かい 宮 ク 一 惡 あく





角 商 一 源 げん
 角 商 専 せん
 角 商 雜 ぞう
 角 商 執 じつ
 角 商 心 しん
 角 商 判 はん
 角 商 浅 せん
 角 商 深 じん
 角 商 一 信 しん
 角 商 廣 こう
 角 商 開 かい
 角 商 一 代 だい
 角 商 教 けう
 角 商 一 源 げん
 角 商 信 しん
 角 商 廣 こう
 角 商 開 かい
 角 商 一 代 だい
 角 商 教 けう

角 商 一 行 ぎよう
 角 商 者 じゃ
 角 商 正 しょう
 角 商 受 じゆ
 角 商 金 こん
 角 商 剛 こう
 角 商 心 しん
 角 商 與 よ
 角 商 韋 い
 角 商 提 だい
 角 商 等 とう
 角 商 獲 ぎやく
 角 商 三 さん
 角 商 忍 にん

角 商 一 報 ほう
 角 商 化 け
 角 商 二 に
 角 商 土 ど
 角 商 正 しょう
 角 商 辨 べん
 角 商 立 りつ
 角 商 一 偏 へん
 角 商 歸 き
 角 商 安 あん
 角 商 養 よう
 角 商 勸 かん
 角 商 一 切 さい

角 商 一 即 すぐ
 角 商 證 しょう
 角 商 法 ぽつ
 角 商 性 しょう
 角 商 之 し
 角 商 常 じよう
 角 商 樂 らく
 角 商 一 慶 ぎよう
 角 商 喜 き
 角 商 一 一 ち
 角 商 念 ねん
 角 商 相 そう
 角 商 應 おう
 角 商 後 ご

角^ン 商^ウ 眞^{しん} 宗^{しゆ} 教^{けう} 證^{しやう} 興^{こう} 片^{へん} 州^{しう}
 宮^ン 一^{いち} 本^{ほん} 師^し 源^{げん} 空^く 明^{みやう} 佛^{ぶつ} 教^{けう}
 角^ン 商^ウ 煩^{ぼん} 惱^{のう} 鄣^{しやう} 眼^{げん} 雖^{すい} 不^ふ 見^{けん}
 宮^ク 一^{いち} 極^{ごく} 重^{じう} 惡^{あく} 人^{にん} 唯^{ゆい} 稱^{しやう} 佛^{ぶつ}
 角^ン 商^ウ 煩^{ぼん} 惱^{のう} 鄣^{しやう} 眼^{げん} 雖^{すい} 不^ふ 見^{けん}
 宮^ク 一^{いち} 極^{ごく} 重^{じう} 惡^{あく} 人^{にん} 唯^{ゆい} 稱^{しやう} 佛^{ぶつ}

我 が 亦 やく 在 ざい 彼 ひ 攝 せつ 取 しゅ 中 ちゅう
宮 宮 宮 宮 宮 宮
 大 だい 悲 ひ 无 む 倦 けん 常 じょう 照 せう 我 が
宮 宮 宮 宮 宮 宮
 憐 れん 愍 みん 善 ぜん 惡 まく 凡 ぼん 夫 ぶ 人 にん
宮 宮 宮 宮 宮 宮
 選 せん 擇 じやく 本 ほん 願 がん 弘 ぐ 惡 あく 世 せ
宮 宮 宮 宮 宮 宮



角 ウ	商 ク	道 ^{どう}	宮 一	弘 ^ぐ	角 ク	商 ウ	速 ^{そく}	宮 一	還 ^{げん}
角 ウ	角 ク	俗 ^{ぞく}	宮 一	經 ^{きやう}	角 ウ	角 ク	入 ^{にう}	宮 一	來 ^{らい}
商 ヘ	角 ク	時 ^じ	宮 一	大 ^{だい}	商 ヘ	角 ク	寂 ^{じやく}	商 ヘ	生 ^{しょう}
宮 一	角 ク	衆 ^{しゆ}	宮 一	士 ^し	宮 一	角 ク	靜 ^{じやう}	宮 一	死 ^じ
羽 一	商 ヘ	共 ^ぐ	羽 一	宗 ^{しゆ}	羽 一	商 ヘ	无 ^む	羽 一	輪 ^{りん}
角 ウ	商 ヘ	同 ^{どう}	角 ウ	師 ^し	角 ウ	商 ヘ	爲 ^い	角 ウ	轉 ^{でん}
宮 一	商 ヘ	心 ^{しん}	宮 一	等 ^{とう}	宮 一	商 ヘ	樂 ^{らく}	宮 一	家 ^げ

宮 一	唯 ^{ゆい}	宮 一	拯 ^{じやう}	宮 一	必 ^{ひつ}	宮 一	決 ^{けつ}
宮 一	可 ^か	宮 一	濟 ^{さい}	宮 一	以 ^ち	宮 一	以 ^ち
商 ヘ	信 ^{しん}	商 ヘ	无 ^む	商 ヘ	信 ^{しん}	商 ヘ	疑 ^ぎ
宮 一	斯 ^し	宮 一	邊 ^{へん}	宮 一	心 ^{じん}	宮 一	情 ^{じやう}
羽 一	高 ^{こう}	羽 一	極 ^{ごく}	羽 一	爲 ^い	羽 一	爲 ^い
宮 一	僧 ^{そう}	宮 一	濁 ^{じやく}	宮 一	能 ^{のう}	宮 一	所 ^{しよ}
羽 一	說 ^{せつ}	羽 一	惡 ^{あく}	羽 一	入 ^{にう}	羽 一	止 ^し



極^宮速^微圓^角融^微之^羽白^角道^宮
 世^商間^角難^角信^角之^商捷^宮徑^宮
 心^角光^角攝^角護^角之^角一^角心^宮
 金^微剛^角不^角壞^角之^角真^角心^宮

真^商如^角一^角實^角之^角信^角海^宮
 證^宮大^角涅^角槃^角之^角真^角回^角
 希^角有^角最^角勝^角之^角大^角信^角
 易^微往^角无^角人^角之^角淨^角信^角

念

佛

出呂
音曲

宮

平調

俱曲



宮 ス	南	序曲	宮 一	南	●	宮 一	南	●	宮 一	南	●	定曲	宮 ス	南	な	序曲
宮 ス	无		宮 ス	无		宮 ス	无		宮 ス	无			宮 ス	无	も	
宮 ス	阿		宮 ス	阿		宮 ス	阿		宮 ス	阿			宮 ス	阿	あ	
宮 ス	彌		宮 ス	彌		宮 ス	彌		宮 ス	彌			宮 ス	彌	み	
宮 ス	陀		宮 ス	陀		宮 ス	陀		宮 ス	陀			宮 ス	陀	だ	
宮 ス	佛		宮 ス	佛		宮 ス	佛		宮 ス	佛			宮 ス	佛	ぶ	

角 ス	南	●	角 ス	南	●	角 ス	南	●	角 ス	南	●	同
角 ス	无		角 ス	无		角 ス	无		角 ス	无		
角 ス	阿		角 ス	阿		角 ス	阿		角 ス	阿		
角 ス	彌		角 ス	彌		角 ス	彌		角 ス	彌		
角 ス	陀		角 ス	陀		角 ス	陀		角 ス	陀		
角 ス	佛		角 ス	佛		角 ス	佛		角 ス	佛		



ウ 一 微 スク 仰 げう 一 微 スク 可 か	ン 一 微 スク 還 げん ウ 一 微 スク 相 そう	ウ 一 微 スク 證 しょう イ 一 微 スク 大 だい
羽 スク 奉 ぶ 一 微 スク 持 じ	一 微 スク 利 り 一 微 スク 益 やく	羽 スク 涅 ね ン 一 微 スク 槃 はん
一 商 スク 特 たく 一 商 スク 可 か	けん 一 商 スク 顯 けん 一 角 スク 利 り	一 微 スク 籍 じやく が 一 商 スク 願 がん
ウ 一 商 スク 頂 ちよう イ 一 角 スク 戴 だい	た 一 商 スク 他 他 ウ 一 角 スク 正 しょう	一 角 スク 力 りき え 一 商 スク 廻 かい
一 商 スク 矣 い 一 商 スク 矣 い	一 微 スク 意 い 一 微 スク 意 い	一 角 スク 向 こう

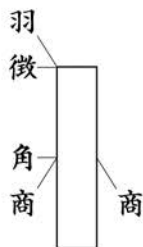
回向句

(證卷)

出中 音曲

徴

壹越調



しゅう そ ごう たん ほう さん ほう よう 宗祖降誕奉讃法要

宗祖降誕奉讃法要は、仏教音楽研究委員会（現：浄土真宗本願寺派総合研究所）において検討が重ねられ、1963（昭和38）年にご制定となりました。

この法要は、讃歌衆^{さんかしゅう}の合唱やオルガンの響きが特徴となっており、声明^{しょうみょう}や雅楽^{ががく}による伝統的な法要とはまた別の、独特な雰囲気^{みどろ}に御堂が包まれます。

本年は約100名の高校生による讃歌衆を結成しました。

なお、全国の宗門関係学校（龍谷総合学園）の学生・生徒や中央仏教学院の学院生、合わせて約1,200名がこの法要に参拝し、ともに勤めます。

 教化部

龍谷総合学園加盟高等学校

旭川龍谷高等学校	札幌龍谷学園高等学校
小樽双葉高等学校	千代田高等学校
武蔵野大学高等学校	国府台女子学院高等部
龍谷富山高等学校	高岡龍谷高等学校
金沢龍谷高等学校	北陸高等学校
岐阜聖徳学園高等学校	龍谷大学付属平安高等学校
京都女子高等学校	相愛高等学校
神戸龍谷高等学校	兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校
神戸国際高等学校	岡山龍谷高等学校
崇徳高等学校	敬愛高等学校
筑紫女学園高等学校	東九州龍谷高等学校
龍谷高等学校	敬徳高等学校
パシフィック・ブディスト・アカデミー高等学校	
〈PACIFIC BUDDHIST ACADEMY（ハワイ）〉	



恩徳讃

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし



お西さん（西本願寺）SNS紹介



龍谷山 本願寺LINE公式アカウント開設

毎日のお勤め時間や帰敬式の日程をはじめ、大谷本廟の受付混雑状況などの情報をお届けします。



LINE ID「@hongwanji」

お西さん（西本願寺）公式ホームページ

<https://www.hongwanji.kyoto>

本願寺のさまざまな情報を随時発信しています。
ご参拝にお役立てください。



お西さん（西本願寺）公式X(旧Twitter)

@nishi_hongwanji

法要行事のご案内など本願寺の「今」をお伝えしています。
フォローをお願いします。



お西さん（西本願寺）公式Instagram

nishi_hongwanji

本願寺境内の四季折々の風景などをお届けします。
フォローをお願いします。



お西さん（西本願寺）公式note

https://note.com/nishi_hongwanji

仏教や宗教に関するコラムやお西のお坊さんなどへのインタビューまで、本願寺にまつわる情報をお届けします。





※宗祖降誕会の日程とは若干異なります。

毎日

🕒 5:30～ ○ 開門

🕒 6:00～ ○ 晨 朝 (お勤め・法話・御文章)

ほとけさまのお話を
聞いてみませんか?



引き続き

帰 敬 式

| 両堂 (阿弥陀堂・御影堂)

| 御影堂

🕒 11:00～ ○ お西さんの法話

参加
無料

| 御影堂 15分1席 ※配信なし



総永代経

🕒 11:30～ ○ 総永代経 (お勤め・法話) | 阿弥陀堂

🕒 13:30～ ○ 帰 敬 式 | 御影堂

🕒 14:00～ ○ お西さんの常例布教

参加
無料

| 総会所 30分2席 ▶LIVE 【昼座】

🕒 15:00～ ○ 総永代経 (お勤め・法話) | 阿弥陀堂

🕒 16:00～ ○ お 夕 事 (お勤め) | 両堂 (阿弥陀堂・御影堂)

🕒 17:00～ ○ 閉 門

毎週土曜日

🕒 17:00～ ○ お西さんの土曜法話

参加
無料

| 総会所 40分1席 ▶LIVE

※時間・会場等、変更する場合がございますので、ホームページ等で事前にご確認ください。

▶ YouTubeによるお聴聞ができます！

毎日の晨朝・昼座とお西さんの土曜法話をYouTubeにて

▶LIVE 配信しています。

また、過去の法話(アーカイブ※)も公開中です。

上記チャンネルから、いつでもどこでもお聴聞していただけます。

※(アーカイブ配信)は期間限定公開(諸事情により公開されない場合もございます)。



YouTubeチャンネル

「お西さんの法要行事」



じん じょう
晨朝く朝のお勤め

毎朝(6:00)/阿弥陀堂・御影堂 ▶LIVE

随時更新中！
ぜひご覧ください。

お西さんの土曜法話

土曜日(17:00)/総会所 40分1席 ▶LIVE



YouTubeチャンネル

「お西さんの常例布教」



ひる ざ
昼座 毎日(14:00)/総会所 30分2席 ▶LIVE

「お西のお坊さん」による境内案内 お西さんを知ろう！

1日4回 所要時間…約30分

集合場所:お茶所

1回目 10:00～ 2回目 11:30～

3回目 13:45～ 4回目 15:30～

本願寺の僧侶「お西のお坊さん」が、両堂や境内各所を法話を交え、ご案内いたします。どなたでも何度でもご参加いただけます。

参加希望の方は、

上記開催時間までに

お茶所にお越しください。

※本法要期間中も開催いたします。



何がもらえるかは
お楽しみ♪

ご参加いただいた方には…

オニシ
024Card 全24種

1枚をプレゼント！

本願寺の見どころを紹介する
オリジナルカードです。



「ご参拝の皆さまへ」

帰敬式のご案内

「当日のお申し込みでも
法名をいただくことができます」

帰敬式は「おかみそり」とも呼ばれ、

阿弥陀如来・親鸞聖人の御前で

浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし

お念仏申す日暮らしを送ることを誓う

大切な儀式です。

仏教をひらかれたお釋迦さまの「釋」の一字と

漢字二文字※からなる「法名」が授けられます。

「法名」とは、み教え（法）を依りどころとして

お浄土への道を歩ませていただく

仏弟子としての「名のり」です。

※漢字二文字は、經典（浄土三部經）や

親鸞聖人のご著書の中より選ばれています



本願寺HP



帰敬式のご案内

受式時間

【午前(朝)の部】

※本願寺にて毎日2回行っております。

晨朝(6時)に引き続き

【午後(昼)の部】

13時30分から

※速夜法要(14時)がある場合は13時と
なりますので事前にご確認ください。

受付冥加金

【成人】 10,000円 ※2022年4月より成人年齢は18歳

【未成年】 5,000円

※希望する法名(2文字)がある場合、所属寺住職と相談のうえ、法名を
内願することができます。受式希望日より2か月前の申請が必要となり、
上記冥加金に加えて10,000円以上の懇志をお納めいただきます。

受付場所 龍虎殿

申込方法

龍虎殿(参拝教化部)受付にて『帰敬式受式願』【※PDF形式ダウンロード可】と受式冥加金を添えてお申込みください。

事前に記入の上、封書またはファックスでお申込みいただくと受付時間が短縮されます。

※【お西さん(西本願寺)ホームページ】⇒【各種お申込み】⇒【帰敬式】からA4用紙にプリントしてご利用ください。

Q なぜ、法名は
「釋〇〇」だけなの
ですか？

浄土真宗のみ教えは、みな等しくともにお浄土への道を歩ませていただくという教えですから、「釋〇〇」の法名以外に「信士・信女・居士・大姉」等の位号などは用いせん。



獅子口さん

のき丸



「院号」を いただくには

院号って何？



院号は、宗門へ貢献をされた方や、20万円以上の永代経懇志を納めていただいた方へお渡ししているものです。

おくれる院号は「○○院」の漢字3文字で浄書(墨書き)したものに本願寺印が押印されています。院号はご自身の希望の文字を入れて、内願することができます。帰敬式を受式されている方には、院号のあとに法名「釋○○」が併記されます。

院号・法名は生前にいただくことができるんだね！



院号とあわせて式章もいただけるんだね！



「院号」がいただける基準

- 寺院の門徒総会を通算20年(5期)以上経歴された方や、寺院の責任役員を通算12年(3期)以上経歴されるなどその功績が認められた方
- 宗門および本山に多額の永代経懇志を進納された方(懇志20万円以上の永代経扱いとして交付)

■ 永代読経修行之証

永代読経申し込み後、初めて法要に参加いただいた際に、「永代読経修行之証」という証書をお渡しします。この証書をお持ちいただいた方には、これ以降本願寺・国宝「阿弥陀堂」にて、原則1日2回修行される総永代読経法要にいつでもお参りいただき焼香することができます。



すべてのご家庭に阿弥陀様を

龍虎殿(参拝教化部)受付にてお迎えいただくことができます

〈左側〉蓮如上人(蓮師)



〈中央〉御本尊(阿弥陀如来)



〈右側〉親鸞聖人(宗祖・祖師)



※上記写真の他に六字尊号(南無阿弥陀仏)、九字尊号(南無不可思議光如来)、十字尊号(帰命尽十方無礙光如来)がございます。
※大きさと表装の違いにより異加金額が変わりますので、詳しくは参拝教化部(免物係)までお問い合わせください。

いちょう・きく

いろいろな生活環境においても、心のよりどころとしてのご本尊を安置していただける小型の「いちょう」と「きく」があります。それぞれにご絵像と六字名号があります。



いちょう

(縦24cm×横19cm×奥行9cm) (縦17.2cm×横10.3cm×奥行2.9cm)

みょうが きん
異加金 30,000円



きく

みょうが きん
異加金 20,000円

Web申し込みが
できるようになりました。
ぜひ、ご利用ください。

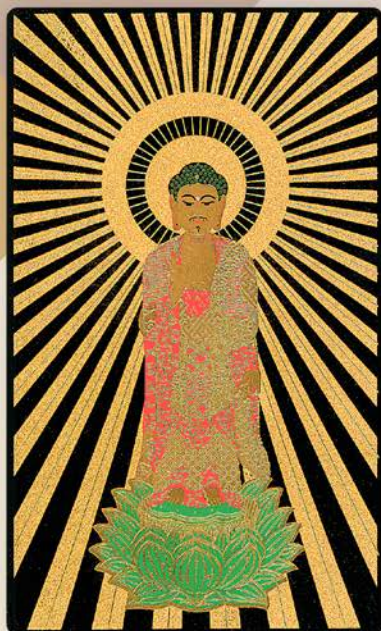
申込フォームはこちら

門信徒／一般用



寺院用





縦90mm×横55mm×厚み2mm
漆ブラック調バイオプラスチック

みょうが きん
冥加金 10,000円

携行本尊とは、「独りじゃないよ、いつも一緒だよ」と、
よびかけてくださる阿弥陀さまを
いつでもどんな時でも感じられるよう、
持ち歩くことができる名刺サイズの御本尊です。
ご自身のために、また遠く離れて暮らすご家族のために、
ぜひお求めください。
西本願寺（龍虎殿）で直接お迎えいただけるほか、
ホームページからのお申し込みも可能です。

携行本尊 (絵像)

PR動画及び
申込みフォーム
はこちら→



携行本尊関連商品のご案内

※下記関連商品は【取扱い】先からお求めください。



- ・二つ折携行本尊入(4種)
- ・ホック付き携行本尊袋(3種)
- ・携行本尊ケース(茶・白)
- ・本尊スタンド(丸型・角型)他

【取扱い】
開明社(西本願寺売店)
TEL.075-341-4397



携行本尊専用
レーザーケース(3種)

【取扱い】
井筒法衣店
WEBカタログ
TEL.0120-075-720



携行本尊用
フレーム&台座

【取扱い】
いのりオーケストラ
オンラインショップ
www.inori-orchestra.net





浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金 「令和6年能登半島地震 災害義援金」 募集について

昨年1月1日発生の「令和6年能登半島地震」の被害は8教区に及び、最も被害の大きかった能登半島地域では多くの方が避難生活を余儀なくされており、寺院・門信徒ともに甚大な被害報告が寄せられました。宗派では、被災地復興を目的に、2024(令和6)年1月5日より標記募金の募集を行っておりますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

記

1.募金の名称

浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金
「令和6年能登半島地震 災害義援金」

2.受付口座番号

郵便振替 01000-4-69957

加入者名 たすけあい募金

銀行振込

銀行 ゆうちょ銀行

店名 一〇九(イチゼロキュウ)店

番号 当座 0069957

名義 たすけあい募金

※通信欄に「能登地震」とご記入ください。住所、連絡先、領収書名のご記入をお願いします。

※インターネットバンキングにて振込の方は、振込日・金額・送金人・住所・連絡先・領収書名等についてメールアドレス(saigai-taisaku@hongwanji.or.jp)にお知らせをお願いいたします。

お預かりした募金は災害義援金として、被災地へお送りさせていただきます。

3.受付期間

2024(令和6)年1月5日(金)から継続

4.問い合わせ先

浄土真宗本願寺派伝道本部  社会部

TEL: 075-371-5181(代)

mail: saigai-taisaku@hongwanji.or.jp

龍虎殿・
安穏殿・お茶所・
開法会館ロビー等に
募金箱を設置
しております。

※支援及び対応については、浄土真宗本願寺派
公式ウェブサイトでご確認いただけます。





開催日時	第1回	(令和7) 2025年	5月10日	終了
	第2回	(令和7) 2025年	11月1日	土
	第3回	(令和7) 2025年	12月13日	土
	14:00～16:30 受付は龍虎殿1階にて行います。10分前にはご集合ください。			

参加対象 | どなたでもおひとりさまからご参加いただけます。

定員 | 各50名

参加想志 | 1名につき3,000円
※小学生以上は通常想志、小学生未満は無料とします。

会場 | 阿弥陀堂・御影堂・書院 他

内容 | 阿弥陀堂・御影堂・渡り廊下・喚鐘廊下等の清掃作業

申込手順 | 開催1週間前までに参拝教化部念仏奉仕団担当へ電話、申込フォームまたは直接お申し込みください。

携行品 | 清掃奉仕のできる服装、念珠、雑巾1枚、健康保険証、その他各々が必要とするもの。

連絡先 | 本願寺参拝教化部 念仏奉仕団担当
TEL.075-371-5181(代表)
FAX.075-371-7601(直通)



申込みフォーム



Time Schedule

14:10～

清掃

阿弥陀堂・御影堂の外陣や縁側及び渡り廊下の清掃をしていただきます。

14:50～

書院案内・抹茶接待

参加者のみなさまを特別に書院へご案内し、国宝の鴻の間に抹茶を召しあがりいただきます。

16:00～

日没勤行参拝

本願寺での日没のお勤めをご一緒に。

16:10～

法話

最後に、ほとけさまのお話を聞きます。

※「お西さんの奉仕団～平日バージョン～」への団体及び個人の参加については、1泊2日日程の念仏奉仕団の参加回数にはカウントされません。

※午後の帰敬式受式(冥加金1万円)を希望される方は12:30までに龍虎殿にて受付を済ませてください。

大谷本廟

おおたにほんびょう

【親鸞聖人のご廟所】

京阪「清水五条」駅より徒歩約15分
市バス(206・207)・京阪バス(311・312)で「五条坂」降車

大谷本廟は、今も昔も有縁の方々、納骨・永代経・墓参などをご縁としておみのりを聴聞される場所です。その由緒を大切にされる多くの皆さまのご参拝を心よりお待ちしております。



総門

京都東山五条の大谷本廟は、親鸞聖人をはじめ歴代宗主のご廟所(墓所)です。聖人のご廟である祖壇のお側に納骨させていただきたいという思いから、全国の門信徒が納骨をされる場所として、毎日大勢の方々がご参拝され、香煙がたえません。

住所・電話番号

〒605-0846
京都市東山区五条橋東6丁目514
電話番号 (075) 531-4171 (代)
FAX番号 (075) 531-2072
<https://otani-hombyo.honganji.or.jp>

角坊

すみのぼう

【親鸞聖人ご往生の地】

地下鉄「太秦天神川」駅または嵐電「山ノ内」駅より徒歩10分



京都山ノ内にあります角坊は、親鸞聖人が晩年のお住まいとされた善法坊跡であり、本願寺第20代宗主広如上人時代に「聖人ご往生の地」と定められ、坊舎が建立されたことに始まります。

ご本尊がご安置されている還浄殿は六間四面のひのき造りで、正面欄間には聖人ご往生の様子が彫刻・装飾されており、また、正面の「還浄殿」の額は広如上人のご染筆です。親鸞聖人七百五十回大遠忌事業の一環として大規模な境内整備が行われ、現在に至っており、六月一日・二日には『広如忌』の法要をお勤めいたしております。

住所・電話番号

〒615-0091
京都市右京区山ノ内御堂殿町25番地
電話番号 (075) 841-8735
FAX番号 (075) 841-8736

大谷本廟 納骨・永代経総追悼法要

「大谷本廟納骨・永代経総追悼法要」とは、大谷本廟へご納骨された方、永代経のご縁を結ばれた方を対象とし、お念仏を依りどころとして往生された先人のご遺徳を偲び、お浄土に思いを馳せ、今を生きる私たち

一人ひとりの「いのち」のあり方を見つめなおす機縁とする法要です。
阿弥陀如来のお徳を讃えて、「南無阿弥陀仏」のみ教えに遇い得たことを共に喜ばせていただきますよう。

期日 2025(令和7)年
6/5(木)―8(日)

場所 大谷本廟 明著堂

受付時間 各日10時から
受付場所 6階無量寿堂受付前

※インターネット中継を行いますので、詳細は大谷本廟ホームページをご確認ください。

日程	
13時30分	仏教讃歌(本願寺合唱団)
13時45分	挨拶
13時50分	法名奉呈
14時00分	法要 十二礼作法
14時00分	法要終了後法話(約20分)
引き続き	恩徳讃・焼香



大谷本廟 朝の法座

「朝の法座」は、一九五七(昭和三十三年)八月七日より十一日「黎明講座」として開催されたものを起源とし、一九五八(昭和三十三年)、大谷本廟において宗祖

親鸞聖人七百回大遠忌法要(予修)が勤修されましたが、その年を機に、「朝の法座」と改称し、本年度六十八回目を迎えます。お誘い合わせのうえぜひご参拝ください。

期日 2025(令和7)年
7/20(日)―22(火)

場所 大谷本廟 礼拝堂

※インターネット中継を行いますので、詳細は大谷本廟ホームページをご確認ください。

日程	
5時30分	開門
6時30分	受付開始
7時00分	勤行(重誓偈)
7時10分	法話・講話(50分間)
8時00分	閉会



大谷本廟
ホームページ



大谷本廟 納骨・永代経総追悼法要／大谷本廟 朝の法座

